

25. 10. 2 学院福音化

「イエス・キリストの福音」

10月は、「イエス・キリストの福音」です。福音についてのみことばを続けて聞くので本当に感謝です。四福音書の中で一番最初に書かれたのが、マルコの福音書で、その始まりは、このように始まります。

マルコの福音書 1章 1節

神の子、イエス・キリストの福音のはじめ。

このことばは、イエス・キリスト、すなわち福音はイエス・キリストだということでしょう。ローマ1章2節から4節を見れば、さらに確かに書いてあります。

ローマ人への手紙 1章 2~4節

02 ——この福音は、神がご自分の預言者たちを通して、聖書にあらかじめ約束されたもので、
03 御子に関するものです。御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、
04 聖なる靈によれば、死者の中からの復活により、力ある神の子として公に示された方、
私たちの主イエス・キリストです。

「この福音は神がご自分の預言者たちを通して、聖書にあらかじめ約束されたもので・・・私たちの主イエス・キリストです。」と書いてあります。ですから、福音はイエス・キリストだということです。1、2節で「聖書にあらかじめ約束されたもので、御子に関するものです」とあるように、神の御子イエス・キリストについて、聖書は記録されているということです。ヨハネの福音書5章を見ると、イエス様も直接、「聖書はわたしについて証ししている」と言われました。

ヨハネの福音書 5章 39節

あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています。その聖書は、わたしについて証ししているものです。

聖書はすべてイエス・キリストに関する話だということです。言い換えると、聖書全体が福音だと言えるでしょう。ですから、聖書をたくさん見て、読んでください。

では、そのイエス・キリストの生き方の核心は何だったのでしょうか。聖書に記録されたイエス・キリストの生き方の核心の部分。みことばが人となって来られたこと。その方が十字架で

し死んで三日目に復活されたということでしょう。それが福音の核心です。イエス様は神様の御子です。しかし、その方は神様です。ヨハネ1章1節から3節に書かれています。

ヨハネの福音書 1章 1~3節

- 01 初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。
02 この方は、初めに神とともにおられた。
03 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。

それなら、イエス様が福音なのですが、イエス様は永遠前からおられた方です。福音も創造の前からからあったということでしょう。イエス様が福音ですから。それについて I ペテロ1章20節に確かに言われています。

ペテロの手紙第一 1章 20節

キリストは、世界の基が据えられる前から知られていましたが、この終わりの時に、あなたがたのために現れてくださいました。

このみことばは皆さんのが福音が何かを理解するにあたって、とても重要なみことばです。このみことばのほかの翻訳、韓国の共同翻訳があるのですが、それを見れば、もう少し詳しく具体的に翻訳してあります。

「神様は天地を創造される前にキリストを救世主としてあらかじめ定められ、この終わりの時にあなたのためにその方を世に現わしました。」もっと明らかに書いてあります。
では、イエス様が創造の前に救世主としてあらかじめ定められていた、このみことばは、創造以降に人間が墮落して、罪とのろい、死の中に置かれることになることも、あらかじめ神様が定めておかれたということになります。福音であるイエス様が創造の前に準備されていたということなのですが、なぜ救世主が創造の前から必要だったのでしょうか。創造以降に人間の墮落、罪ゆえに墮落して神様を離れて、それゆえ死のうちにいるようになることを、すでに神様が聖定されていたということです。そのために、必ず覚えておくべきことは、福音は墮落した人間を罪から救い出して天国に送るための方法として私たちに与えられたのではないということです。表面的には、このみことばは正しいです。罪から救い出して、その人々を神様の民として天国に導くのですから。しかし、私が今言っている意図は、「福音は人のために存在するではない」ということです。人に焦点を合わせて福音を考えてはいけないということです。
言い換えますと、神様が全く考えることも、予想することもできなかった創世記3章の事件を解決するために、急いで福音というものを準備して与えられたのではないということです。

簡単に話すと、「問題解決のための福音なのか」「福音を説明するための問題か」その違いです。これは、「神様が私のために存在される方なのか」「私が神様のために存在するのか」というくらい重要な違いです。だれでも、「私が神様のために存在するのであって、神様が私のために存在するのではない」と言うでしょう。しかし、福音に関しては問題解決のための福音で、程度にだけ考える場合が多いということです。再びローマ1章2、3節のみことばに戻ります。

ローマ人への手紙 1章 2~3節

02 ——この福音は、神がご自分の預言者たちを通して、聖書にあらかじめ約束されたもので、03 御子に関するものです。御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、

神様の御子に関する福音を説明するために、創造と終末、始まりと終わりがあると、聖書に記録にされていて、その聖書を通して、限られた歴史と人生を私たちが生きている中で、「神様がだれなのか」と「私がどんな存在なのかを悟って学ぶ」のです。聖書は、初めて神様が天と地を創造されたという、この創造の世界について記録しています。そして、黙示録には、この世は必ず終わりがあることを知らせています。そして、黙示の中で、完成されている神の国を説明しています。ですから、この始まりと終わりがある歴史を生きている私たちの人生は、すでに創造の前から準備された、福音であるイエス・キリストを通して、「神様がだれなのか」「私はどんな存在なのかを悟って学ぶ」のです。神様は創造主です。私たちは被造物で、造られた者です。それゆえ、私たちはこの福音、すなわちイエス・キリストを通してだけ、神様を知ることができます。そして、イエス・キリストを通してだけ、「私がだれなのかを正確に知るようになるのです。

私は学院福音化をレムナントに対してメッセージしています。これを、神様が悟らせてくださる恵みがあるように願います。今まで私が説明したことについて、何箇所かことばを確認してみましょう。

神様がだれなのか、私がだれなのか、創世記2章7節のみことばを読んでみましょう。

創世記 2章 7節

神である主は、その大地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなった。

このみことばは、単純に人の材料が土ですという情報を与える程度のみことばではありません。土、大地のちりで造られた。これは、原語でアバルという単語で、「ほこり」です。人をちり、ホコリで造ったというのは、そのまま、なし、無、Nothing、何もない存在ということを

説明しています。私たちに神様のいのちの息が吹き込まれることによって、「生きるもの」になりました。死んだり、ホコリにしかすぎない人間に、神様のいのちの息が注がれてこそ、生きる存在になることができるということです。詩篇113篇7節にも、そのように言われています。

詩篇 113篇 7節

主は弱い者をちりから起こし貧しい人をあくたから引き上げ

韓国語の聖書では、主なる神様が、貧しい者をちりから、また弱い者をあくたから、このようないょうげん表現ですが、貧しい者、弱い者とは、皆同じことばで、絶対的な弱さ、貧しさを語っています。私には、今、私を生かすことができる、回復させることができる力は何もないです、という告白です。単に私は何も、私には何もありません、何もありませんと、ここで二回もくりかえして言っているのです。そして、「ちり」が出てきます。創世記2章7節のアバルと同じ單語です。そして、「あくた」ということばが言われていますが、「ゴミ」です。ヘブライ語の原語を見ると、汚物ということばです。そのような汚物の中にいたということです。そういう私たちに、神様のいのちの息が吹き込まれて、私たちが引き上げられるということです。

詩篇113篇7節のみことばは、サム2章にあるハンナの祈りを引用した内容ですが、ハンナが子どもがいなかつたのが、契約の祈りをしたら神様が感動して子を与えられた、そのような内容ではありません。女、教会、花嫁である私たちのことを話していて、私たちは、花嫁であるイエス・キリストによってのみ、いのちを得ることができるということを説明しているのです。それゆえ、ハンナがサムエルを産んだ後にした祈りが、「私をちり、あくたから引き上げられた」という告白をしたのです。本来、花嫁から出てきた同じからだである花嫁なのに、そういう花嫁である私は、花嫁がいなければ、ただの枯れた木のようなものですということです。枯れた干からびた木ということばから、干からびた骨、ということばを思い出ででしょう。エゼキエル37章がその話です。

エゼキエル書 37章 1~3節

- 01 主の御手が私の上にあった。私は主の靈によって連れ出され、平地の真ん中に置かれた。
そこには骨が満ちていた。
- 02 主は私にその周囲をくまなく行き巡らせた。見よ、その平地には非常に多くの骨があつた。しかも見よ、それらはすっかり干からびていた。
- 03 主は私に言われた。「人の子よ、これらの骨は生き返ることができるだろうか。」私は答えた。「神、主よ、あなたがよくご存じです。」

ここでは、すっかり干からびてしまった骨が出てきます。

エゼキエル書 37章 4~6節

- 04 主は私に言われた。「これらの骨に預言せよ。『干からびた骨よ、主のことばを聞け。』
- 05 神である主はこれらの骨にこう言う。見よ。わたしがおまえたちに息を吹き入れるので、おまえたちは生き返る。
- 06 わたしはおまえたちに筋をつけ、肉を生じさせ、皮膚でおおい、おまえたちのうちに息を与え、おまえたちは生き返る。そのときおまえたちは、わたしが主であることを知る。』

干からびた骨、死んだ者のことです。干からびた骨に向かってみことばを聞けと命令をします。「息を吹き入れるので、おまえたちは生き返る」この話が、創世記2章7節のみことばを説明している部分です。干からびた骨とは私たちです。ちり、死んだ者、その中にみことばのいのちの息が入ったら、生き返るのです。6節の終わりに何と言われているでしょうか。「そのときおまえたちは、わたしが主であることを知る」と言われています。(今日の働き人へのメッセージでも言わっていました。)「神様が私の主人であることを知る」

エゼキエル書 37章 11節

- 主は私に言われた。「人の子よ、これらの骨はイスラエルの全家である。見よ、彼らは言っている。『私たちの骨は干からび、望みは消え失せ、私たちは断ち切られた』と。

このことばは、骨をだれだと言っていますか。イスラエルの全家であると言われているでしょう。だれのことでしょうか。神の民、すなわち、私と皆さんについて言っている話です。旧約の血統のユダヤ人だけを言っているのではなく、新約の靈的イスラエルである神様の民のことを言うのです。干からびた骨、死んだ者なのに、いのちの息が入って生きるようになるとということです。

エゼキエル書 37章 12~13節

- 12 それゆえ、預言して彼らに言え。『神である主はこう言われる。わたしの民よ、見よ。わたしはあなたがたの墓を開き、あなたがたをその墓から引き上げて、イスラエルの地に連れて行く。
- 13わたしの民よ。わたしがあなたがたの墓を開き、あなたがたを墓から引き上げるとき、あなたがたは、わたしが主であることを知る。

それから、死者が中にいる墓を、神様が開いてくださるということです。そのとき、墓から引き上げられた者たちは「あなたがたは、わたしが主であることを知る」ということです。

聖書の全体が、今この話を続けて語っているのです。死んだり、ホコリ、干からびた骨が死の墓から生き返ってくるのです。どのようにでしょうか。神様のいのちの息のみことばが入るようになって。

それでは、神様が私たちの鼻に吹き込んでくださったいのちの息とは何でしょうか。創世記2章7節には、單にいのちの息とだけなっていて、詳しく記録されていません。哀歌4章20節にはこのように書かれています。

哀歌 4章 20節
私たちの鼻の息、主に油注がれた者が・・・

私たちの鼻の息は、神様が油注がれた者だと言われています。今、哀歌4章で語られているこの内容は、ユダの最後の王であるゼデキヤ王について言ったことばです。「主に油注がれた者」というのが、歴史的な人物であるゼデキヤ王のことを話しているのですが、そのゼデキヤ王がユダの民に平和を約束をしましたが、結局、バビロンに滅ぼされてしまいます。引きずられて行って、目もえぐり取られました。このように失敗した王ですが、この箇所が意味している本当の意味は、「まことの真理のまことの平和の王であるイエス・キリスト」のことを語っているのです。本当に平和をもたらす、民たちの鼻の息、民のいのちである神様の油注がれた者イエスを意味する聖書箇所です。この箇所はとても短いのですが、これをヘブライ語で羅列すればこのように出ています。「アドナイ・メシアフ・ルハフ」「アドナイ=神様」「メシアフ=メシア」「ルハフ=聖霊」三位一体の神様が、すべて登場する箇所です。

では、地のちり、ホコリ、死んだ者が、創造前にあらかじめ備えられた救い主、すなわち、神様の御子イエス・キリストによって生き返ることになり、神様の民になる、そういう救いの話が聖書の話で、それこそが福音です。

今日、福音については言いたい話がとても多いのですが、減らしに減らして、このようになりました。ですから、皆さんが聖書の福音であるイエス・キリストについて、ぎっしり満たされている聖書をたくさん見て、読んでください。聖書全体は、この話だけをしているのです。人間の不可能、神様の可能、人間の弱さ、イエス・キリストの恵み。ですから、福音はイエス・キリストです。

マタイ 16:17 にペテロがイエスをキリストと告白したときに、イエス様が言われます。

マタイの福音書 16章 17節

すると、イエスは彼に答へられた。「バルヨナ・シモン、あなたは幸いです。このことをあなたに明らかにしたのは血肉ではなく、天におられるわたしの父です。

「このことをあなたに明らかにしたのは、天におられるわたしの父です」と。神様が私と皆さんに恵みでそれを分からせてくださるのです。何の代価もなく、ただで与えてくださいました。ただで私たちに与えられたというのは、私の能力や努力や私の状態を要求しないということです。そのため、私たちの簡単に言うことばの中で、少し注意しなければならないことがあります。「福音がある、ない」「福音を握った、逃した」そのようなことばは、言わないようすべきでしょう。

少し長くなりましたが、学院福音化のメッセージは、通訳でしているので聞きにくいでしょう。私の話ではなく、語った聖書の箇所を通して皆さんのが聞いたことばを確認してみてください。終わります。